

暦の上ではディセンバー でもハートはタマリバー

今年、何かと話題になった「あまちゃん」そのドラマの中でアメ横女学園芸能コースが歌ったのが「暦の上ではディセンバー」今まさに暦の上ではディセンバー！歌の歌詞はこのあと「でもハートはサバイバー」ですが、私たち玉川地区に住むものにしてみれば「ハートはタマリバー」だと思ってしまうのですが、ダメですかね・・・中学生の頃よく、多摩川=TAMA RIVER=溜まり場と勝手に変換させてよく多摩川河川敷を溜まり場にしたものです。河川敷以外にも学校帰りによく神社やお寺にも溜まったりしていました。ということで、年末恒例今月は玉川地域初詣スポット特集です。今年引っ越されて来た方は是非ご参考に！

「てくたくぶっく」でチェック！用賀の初詣スポット

1. 真福寺 用賀 4-14



真福寺は今から約400年前に創建されたといわれ、大山道に面した山門が赤く塗ってあったので赤門寺とも呼ばれていました。ご本尊は大日如来。開山は宗円和尚、開基は飯田凶書。明治時代、京西小学校が台風で壊れてしまった時、本堂が仮校舎として使用されました。山門を入ると左側に庚申堂、太子堂、法教上人碑、芭蕉の句碑、六地藏、大日堂などが並んでいます。

2. 延命地藏 玉川台 2-3



相模に向かう大山道は、ここから瀬田に向かって二股に分かれます。右を行くと慈眼寺前の坂道、左の道を行くと行善寺、法徳寺のそばを通る坂道、いずれの道も二子の渡しにつながっていました。このお地藏様は1777年用賀村の女念仏講中の人々によって建てられたもので、前面には法界万霊という字が刻んであり、この道を通る人の安全を願い、無縁仏の供養をしたものと思われる。

3. 向稻荷 用賀 1-26



向稻荷は、京都伏見稻荷の分霊を祀り、通称正一位向稻荷といえます。用賀字向の住民が家内安全、五穀豊穰、商売繁盛祈願のために創建したもので、その年代は不明ですが、古文書には天保3年(1832)に初午祭が行われたとの記録があります。現在の社は明治34年に講員が資金を出し合い、用賀の宮大工樽屋(棟梁、故高橋綱吉氏)に発注して建築したものの。

4. 用賀神社 用賀 2-16



用賀神社は以前神明社といい、その創立の年代は不明ですが、明治41年(1908)と一緒に祀った八幡社は、天正年間に鎌倉の鶴岡八幡宮より分霊を迎えたといわれています。この合祀の際には、上用賀にあった天神社も合わせて祀られました。祭神は天照皇大神、応神天皇、菅原道真ほか数柱です。また、神田明神より移入したと伝えられる獅子頭一対があります。

5. 無量寺 用賀 4-20



無量寺は、今から約400年前、光蓮社明誓寿広和尚が開山したお寺です。ご本尊は阿彌陀様。本堂脇の観音堂には木彫りの十一面観世音菩薩が安置されており、用賀村の住人はもとより、遠く阿佐ヶ谷、高円寺、調布の方からも信仰されていたということです。本堂前の大銀杏は樹齢百年を超え、遠くから眺めることができ、寺の風景は昭和59年世田谷百景のひとつに選定されました。

6. 本村稲荷 上用賀 3-13



昔、この辺りは用賀の本村といわれた所で、高台に天神様の社もあったので天神山とも呼ばれていました。そして、天神様の脇には赤い鳥居のお稲荷さんが祀られていましたが、明治41年の用賀神社合祀の際に、天神様と一緒に祀られることになり、ここにはお稲荷さんだけが残りました。

7. 三峯神社 上用賀 6-4



三峯神社の本社は埼玉県秩父郡大滝村にあり、正しくは白岩山、雲取山、妙法岳を総称して三峯と呼び、その一角に日本武尊が祀った神社といわれています。この社は地域の三峯講の人たちによって守られており、境内の右側奥にお地藏様、鳥居の手前右側には庚申塔が建っています。

* てくたく刀サッチ#5「火の見櫓跡」*

大正2年(1913年)、玉川村に6つの消防組が編成されることとなり、用賀はその第1部消防組を受け持ち、約40名の若者が参加しました。そして大山通り松本酒店さんの横に消防器具置き場が作られ、木造の火の見櫓が建てられました。火の見櫓は後に高さ15mもある鉄製の櫓に建て替えられましたが、昭和10年に用賀に世田谷消防署の派出所が出来ることとなってその役目を終えました。その後、何年か経って、この火の見櫓は解体され三鷹の方に移設されたとのことです。現在、用賀地域は玉川消防署管内、主に玉川消防団第11分団が安全を守っています。



「てくたくぶっ兵庫島コース」でチェック！瀬田・二子玉川の初詣スポット

(掲載順)

1. 法徳寺 瀬田 1-7



法徳寺は、浄土宗、福来山と号し、開基は白井法徳上人、源蓮社宗誉上人で、芝の増上寺学寮から派遣されたといわれます。本尊は阿弥陀如来。境内の筆塚は幕末から明治初期にかけてこの地で寺子屋を開き、本村の子供の教育に献身した大塚貞三郎先生の頌徳碑で、門弟たちが建てたものです。寺子屋は「芝光塾」といい、明治7年玉川小学校開校後もしばらく続いたそうです。

3. 大空閣寺 瀬田 4-21



大空閣寺は、真言宗豊山派如意山福智院と号し、虚空蔵菩薩を本尊とします。開基は大阿闍梨聖慶大僧正です。聖慶大僧正は当初大正天皇の即位を記念して深川道場を建立しました。その後、戸塚を経て大正10年に当地に移しました。境内には、本堂開山堂、書院、庫裡の伽藍を有し、寺宝には本尊六大虚空蔵菩薩絵図等、価値あるものが所蔵されています。

5. 瀬田玉川神社 瀬田 4-11



大山道の急な坂の崖上にある瀬田玉川神社は古墳の上に建てられています。社殿は長崎家の造営で、明治41年に改称されるまでは御嶽神社と呼ばれていました。境内には樹齢7～800年の黒松があり、遠くからも見ることができましたが、昭和41年の台風で惜しくも折れてしまいました。今はその幹がご神木として祀られています。秋のお祭りの時には屋台がたくさん出て賑やかです。

7. 両親閣東京別院 瀬田 4-13



両親閣東京別院は、宗門史跡安房小湊両親閣妙蓮寺(日蓮上人ご両親の御墓所)の東京別院として大正12年、妙牙院日昇上人によって創立。大孝根本の布教道場で、敬親玉川教会ともいいます。境内には螻蛄の供養碑がある。

9. 玉川大師 瀬田 4-12



玉川大師は、真言宗智山派、玉真院と号し、大正14年、竜海阿闍梨の開基によるものです。弘法大師を祀る大師堂で、有名な地下霊場は巡排通路100Mに及び、四国及び西国巡排の各寺の写しの石仏300体が安置されています。私も入ったことがあります。善光寺のお戒壇巡りを彷彿とさせます。真暗な中を進み、石仏のある明るい場所へ着いたときホッとしたのを憶えています。体験の価値大です。

10. 岡本八幡神社 岡本 2-22



由緒は明らかではありませんが、境内には文化元年建立の石鳥居があり、文化7年(1810)には社殿が再建され、後の文化10年には61段の石段が築造されています。境内に天満宮ほか6つの社が祀られています。「巨人の星」の星一徹が特訓のためにうさぎ跳びでもさせそうな急勾配の石段の上り口に、松任谷正隆・由実夫妻奉納の石灯籠があるのは有名な話です。

2. 行善寺 瀬田 1-12



行善寺は、浄土宗獅子山西光院と号し、小田原の道栄寺を移したものです。長崎伊予守重光が永禄7年(1564)に北条氏より瀬田の地をもらいうけ、伊予守の法名行善を取ったものです。寺は国分寺崖線の突出した場所にあり、境内からの眺めは素晴らしく、行善寺八景と呼ばれました。江戸時代には後の将軍徳川家慶や多くの文人墨客が訪れた所です。

4. 慈眼寺 瀬田 4-10



慈眼寺は、真言宗智山派、喜楽山教令院と号し、開山は法印定音、開基は長崎四郎左衛門。寺伝では、徳治元年(1306)法印定音が仏の教えを説いて各地を回っている途中この地を通ったとき、崖の中から発掘された降三世明王を里人から譲られたので、小堂を建てて祀り、後に、長崎行善の弟が崖下の小堂を現在地に移し、大日如来を本尊としたとあります。

6. 玉川寺 瀬田 4-12



玉川寺は、妙隆山と号し、昭和7年、日蓮宗総本山身延山83世一乗院日謙上人の開山。日暮里にあった妙隆寺を現在地に移して、身延山関東別院玉川寺と改称しました。寺宝として仏舎利が安置されています。昭和15年ころより「玉川寺」と称するようになり、戦後、墓地も持つようになり、檀家は関東一円にまたがる眺めの良いお寺です。

8. 諏訪神社 玉川 3-26



古老からの言い伝えによると、文明年間(1469～1486)、多摩川に流れ着いた御神体を当地の開拓者、川辺源右衛門勘解由が、水の守護神である諏訪大明神として多摩川上流に対して奉祀したのが起源とされています。

< 瀬田・二子地図 >



< 用賀地図 >



それ行け!!
アサッチ

